様式第２号

会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議の名称</td><td colspan="3">平成３０年度　第１回豊中市図書館協議会</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">平成３０年（２０１８年）７月５日（木）１８時００分～２０時００分</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td>豊中市立岡町図書館　集会室</td><td>公開の可否</td><td>㊀・不可・一部不可</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局</td><td>読書振興課　岡町図書館</td><td>傍聴者数</td><td>２人</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開しなかった理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委員</td><td colspan="3">舟岡 直子　天瀬 惠子　松田 美和子　岸本 岳文　瀬戸口　誠　有本 恵子</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">吉田教育委員会事務局長 北風岡町図書館長 須藤庄内図書館長
虎杖千里図書館長 松井野畑図書館長 萩原岡町図書館副主幹
山根岡町図書館副館長　伯井岡町図書館主査</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">欠席：尾崎委員　吉岡委員　渥美委員</td></tr>
<tr><td colspan="2">議題</td><td colspan="3">1　委員の紹介
2　平成 29 年度豊中市立図書館の外部評価について
3　中央館構想と施設配置のあり方について
4　その他</td></tr>
<tr><td colspan="2">審議等の概要
(主な発言要旨)</td><td colspan="3">別紙のとおり</td></tr>
</table>

平成 30 年度　第１回 図書館協議会　議事録

日時：平成３０年（２０１８年）７月５日（木）１８時～２０時
場所：豊中市立岡町図書館　３階集会室
出席者：(敬称略)
　委員　　舟岡　天瀬　松田　岸本（委員長）瀬戸口　有本
　欠席　　尾崎　吉岡　渥美
　事務局　吉田　北風　須藤　虎杖　松井　萩原　山根　伯井

開 会
資料確認
委員紹介

●委員長
　今日は雨のなかご苦労様です。図書館協議会の運営方法として、豊中市では原則として審議会を公開しており、本日も 1 名傍聴に来られている。傍聴については 10 名の定員としているが、希望者が定員を超えた場合は、その時の状況を見ながら私の方で判断させていただくということでよろしいか。なお傍聴の方にはアンケートをお願いしており、協議会を傍聴されてのご意見等をお伺いし、特に委員の皆様にもお伝えすべき内容については、報告させていただく。次に前回会議録については、事前に送付されたものに委員からのご意見はなかったので、公開の際にはお手元の記録と同じように、概要として発言者については個人名を掲載せず、「委員」とのみ表記することを了承いただきたい。
　それでは議事を進めさせていただく。まず議題 2、平成 29 年度（2017 年度）豊中市立図書館の外部評価について、事務局から説明をお願いする。

●事務局
　平成 29 年度後半に、平成 24 年度から 28 年度まで 5 年間の図書館の運営及び取組み全体について外部評価を実施した。
　「平成 24～28 年度豊中市立図書館評価システム自己点検報告書（資料 2-2）（以下「自己点検報告書」という。)」、「平成 29 年度豊中市立図書館来館者アンケート調査報告書（資料 2-3）（以下「アンケート調査報告書」という。)」、今回変更を予定している新旧「豊中市立図書館評価システム」評価項目表（資料 2-4）についてご説明した後に、部会長から全体のまとめについてご報告いただく形で進めたい。
　自己点検報告書、新旧の図書館評価システム評価項目表、これらは昨年度後半

に開催した図書館協議会図書館評価部会（以下「図書館評価部会」という。）に提出し、ご意見をいただきまとめたものである。旧の評価項目表は、今回の外部評価の時点まで使ってきた評価項目表の一覧、新の方は簡素化をめざして絞りこんだもので、図書館評価部会にお諮りした。今後はこちらの評価項目で指標数値を採って、年報「豊中市の図書館活動」の統計資料編に掲載し、この仕組みを継続していきたいと考えている。

豊中市立図書館の評価システムは、平成 17 年図書館協議会の提言「これからの豊中市立図書館の運営のあり方について」で、指定管理者制度の導入の是非を含む運営のあり方を諮問した結果、現状においては「なじまない」としつつ、図書館内部での徹底した自己点検・自己評価を求めるとの要請があったことが始まりだった。平成 19 年には「豊中市立図書館における評価のあり方について」提言が示され、「図書館の使命・理念、基本目標」を図書館内部で共有すると同時に、市民にも公表・共有をはかり評価するための仕組みづくりに取組んだ。ＰＤＣＡサイクルでサービス改善に繋げていくよう、毎年の自己点検と、3 年に 1 度の外部評価という組み合わせで豊中市立図書館の図書館評価システムが始まった。国内の市立図書館の評価システムとしては先進的な取組みとして、様々なところから関心を寄せていただきながら運用してきた。

その後、豊中市の「事務事業評価」や各分野別計画の進捗管理、「豊中市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」等、市関連の行政評価の仕組みも変化してきた。豊中市立図書館の評価システムは、元々豊中市立図書館の使命・基本目標に照らして、図書館の運営及びサービス・取組み全般を、全方位からチェックする構成になっていたことから、大変多くの指標が設けられていた。

図書館事業が行財政改革の特定事業となり、コストの削減や、一層の効率的・効果的取組みが求められるなかで、平成 25 年度末に「豊中市立図書館中長期計画（通称：グランドデザイン）」を策定した。これまでの全方位的な検証を行う図書館評価システムに対して、グランドデザインは取組む方向性のメリハリや優先すべきことを表す性格のもので、この進捗管理を行うにあたって、図書館評価関連作業を簡素化し、毎年の自己点検の評価指標は、年報「豊中市の図書館活動」に組み込み、外部評価は 5 年に 1 度と間隔をあけるよう変更し、継続可能な形で維持しようとしてきた。

昨年度がその外部評価の年度ということで、夏の終わりに来館者アンケートを実施し、後半に図書館評価部会を開催した。外部評価を行う図書館評価部会は、図書館協議会の臨時部会という位置付けで、図書館協議会の委員 2 名、市民公募委員 1 名、そして豊中商工会議所とＮＰＯ法人から各 1 名、合計 5 名の委員

に 11 月から 3 月まで計 4 回の会議で検討・討議いただいた。

5 年間を振り返った自己点検報告書は、豊中市の事務事業評価や、教育委員会の点検評価報告書等に毎年度提出・公表している内容を反映するよう意識した。自己点検報告書の 1・2 ページと後ろの方は、豊中市立図書館の評価システムの体系、評価基準、ＰＤＣＡサイクルについて説明している。3 ページからは、評価項目の大項目Ｉ「経営・運営・管理状況に関する評価」について、中項目単位の評価ランクを掲載し振り返りと今後の課題を記述している。

大項目Ｉの概要としては、この 5 年間は豊中市の「事務事業の見直し」「施設再編方針」を踏まえた図書館運営と、そのなかでサービスの維持向上に取組んだ 5 年間であった。（以下、大項目Ｉの振り返り）

- コンピュータシステムの更新を契機に貸出手続確認装置（ＢＤＳ）を導入、ＩＣタグによる蔵書管理へ移行し、セルフ貸出機・返却機・予約棚を導入した。
- 「豊中市立図書館中長期計画（グランドデザイン）」に沿って、職員の役割分担の明確化、業務の効率化、分館のあり方検討をもとにした機能変更に着手した。
- ＩＣＴ活用によって、カウンターの待ち時間短縮、資料点検期間の短縮、千里図書館の開館日拡大につなげ、広域利用の拡大にも取組んだ。
- 「暮らしの課題解決支援サービス」を継続して進めた。
- 「名誉市民・山田洋次ライブラリー」を岡町図書館に開設した。
- 図書館協議会では図書館の運営に関しご討議いただき、答申や提言、ご意見をいただいて運営への反映に努めている。
- 市民協働事業としての「北摂アーカイブス」「しょうないＲＥＫ」について、各方面から関心を寄せていただいた。
- 新たに図書館サポーター制度を開始した。

前回の外部評価の際に、図書館のＰＲ不足、情報発信の改善が強く求められたことから、市の他部局や地域の機関や人と繋がることを意識し、その繋がりを活かして市民へＰＲを行うよう、図書館事業の可視化をめざして取組んだ 5 年間でもあった。

これからの課題としては、「事務事業の見直し」と「施設再編方針」によるフロア面積総量の 2 割削減が目標として横たわっているが、業務の効率化・コスト削減と合わせて、図書館を利用したことが無い市民へのＰＲを意識し、図書館が市民に役立つという理解の拡がりをめざして取組んでいきたいと考えている。

5 ページからの大項目Ⅱ「図書館の設置目的・使命の達成状況に関する評価」では、10 の中項目について記述している。

この 5 年間は、暮らしの課題解決に役立つ資料情報提供を意識して取組んだが、他部局・機関と連携して事業を行うことで、事業効果が一層上がることを感じている。豊中市役所内部に向けて「庁内仕事応援サイト」の運営や職員研修への資料提供等を行った。国立国会図書館レファレンス協同データベースへの事例登録も継続して行っている。今後に向けては、レファレンスサービスの市民への周知をさらにはかること、デジタル・アナログ両方の情報提供や利活用に資するような、市民の情報リテラシー支援の具体化に取組む必要があると考えている。

セルフ機の導入を機に、職員は利用者支援に力を入れるよう意識している。千里図書館では資料点検期間中に予約棚を開放し、部分的な開館を行った。国立国会図書館のデジタル化資料の閲覧開始等、多様な資料の提供に取組んでいる。全館に公衆無線ＬＡＮの環境整備も行った。今後に向けては、各館の実情に合わせたセルフ予約棚の導入の研究や、地域の特性に応じたコレクションサービスの整備、ソーシャルメディア等による広報手段の検討等が課題と認識している。

子どもの読書活動推進については、「豊中市子ども読書活動推進計画」2 期 10 年間の取組みを受けて、現在では「豊中市子育ち・子育て支援行動計画」に子ども読書活動推進計画の理念が盛り込まれ、全市的全庁的に継続して見守っていくための新しい連携のあり方として「子ども読書活動連絡会」を立ち上げて取組んでいる。またブックスタート事業も、市民・関係部局と連携して実施している。これらの事業を通して、図書館が子育て支援を行っている認識も市民に拡がっていると感じている。今後に向けては、子どもの読書環境の見守りを継続していくことと、中学生以降の世代に向けての支援、読書に興味をもつための働きかけを検討していくことが必要と考えている。

学校・学校図書館への支援と連携については、「とよなかブックプラネット事業」により環境整備は進み関係は深まり、学校図書館からの資料要求やレファレンスに応え、調べ学習用資料や教員向け資料の充実、教職員への情報発信等にも継続して取組んできた。毎年行っている知的探究合戦「めざせ！図書館の達人」や「子ども読書活動フォーラム」への参加も拡がりを見せており、今後も学校図書館の活用推進に向けて、引き続き連携を深めていきたい。

高齢者、障害者及び外国人の読書環境づくりについては、高齢者人口の増加に伴い、図書館が個人で気軽に利用できる施設と認識されていることを実感している。健康や認知症に関する講座への関心も高く、今後に向けてサービス展開の検討がさらに必要と感じている。障害者サービスでは、障害者差別解消法の施行に前後して、市民周知への工夫に取組んだ。各市民団体に協力を依頼すること等

によって、さらにサービス方法を検討するよう今後も努めていく。

市民との協働事業の推進は、長年豊中の図書館の大事な柱の 1 つと認識して取組んでいる。「しょうないＲＥＫ」や地域教育協議会のように、図書館自身がコミュニティの一員として取組んだ 5 年間でもあった。「北摂アーカイブス」にも多くの関心をいただいている。「しょうないＲＥＫ」は活動 10 年を超え、地域の課題解決の一助となる多様な事業を市民との協働で行ってきた。さらに新しく図書館サポーターの活動も開始した。

今後も図書館が地域の一員として引き続き地域課題解決の一翼を担えるよう、地域との関わりを深めていくこと、職員はそのために認識を深め経験を蓄積するよう取組んでいきたいと考えている。

8 月に全館で実施した来館者アンケートは、中学生以上の来館者に対して 2,789 部配布し、有効回答数は 2,147 部（有効回答率 77.0%）であった。年齢では、40 代、60 代、50 代、70 代、30 代の順に回答が多かった。職業では、会社員 20%強、家事専従者 21%強、派遣・契約社員・アルバイト・パートタイム 18%弱、無職 25%弱という属性だった。

全館の単純集計をアンケート調査報告書の 5 ページ以降にまとめている。利用頻度については、全体では「週に１回程度」が 35.4%で最多、次いで「2 週間に１回程度」が 34.0%、「月に１回程度」が 12.2%、「ほぼ毎日」が 7.0%で、この傾向は平成 24 年度の来館者アンケートの結果とほぼ同様となっている。

この他、単純集計では「来館目的とその達成度」、「利用の効果」、「利用のしやすさ」、「課題解決支援サービス」、「図書館の催しの認知手段」、「図書館で実施しているサービスの満足度および認知度」、「事業の評価」、「重点項目」についてまとめている。

アンケート調査報告書に記載は無いが、自由記述でどのような内容の意見が多かったか、テーマ別にグルーピングすると以下の通りであった。

- 図書館の開館時間・休館日について
  開館時間の前倒しや延長についての希望、あるいは休館日の統一等
- 施設、設備、環境について
  自習室の確保や座席の確保、座席の汚れに対する対策、空調設定温度の見直し、他市や市内の他の図書館との比較、駐車（輪）場の混雑に対する要望、飲食コーナーについての要望等
- 職員等の応対について
  カウンターでの応対やレファレンスではお叱りとお褒めの意見両方有り、警備員の応対について
- 利用者同士でのマナーについて

子どもの泣き声や叫び声、走り回ることへのご意見、利用者の居眠りに対して職員の注意が無いこと、本のページ破れ・手あか・付着物・落書きに対するご意見、携帯電話の使用や音楽プレーヤーの音漏れ、新聞や雑誌等複数の資料を独占している利用者がいることに対するご意見等

・ 貸出冊数、期間、蔵書について
貸出冊数や貸出期間の見直し、リクエストを待つ期間の短縮、新刊・専門書・雑誌・マンガ本・視聴覚資料等の充実についてのご意見、本の貸出記録ノートの導入に対する要望等

その他このアンケート自体に対して、設問が専門的で項目が多すぎるといったご意見もあった。

この来館者アンケートについては、図書館評価部会において、館別や世代別に集計した結果についても提出した。達成度・満足度・認知度に着目し、館によって大きな違いが現れた部分についてもピックアップしてご報告した。

例えば「レファレンス」については、達成度の高かった館は野畑 68.4%、千里 61.1%、これに対して高川 39.9%、幸町 38.9%と差が現れた。調べものをして役に立つ資料群があった、よかったと利用者が実感されたかどうかということは、やはり調べるための資料の種類や冊数が、そもそもたくさんある規模の大きな館で達成度が高い形となって現れているものと受け止めている。

「自習室」については、庄内図書館で 56.7%と高い達成度となった。これは、3 階の協働スペースをしょうないＲＥＫの本の販売の無い時には自習できる場所として提供し繰り返し告知していることで、利用が増えている現れかと思う。一方、東豊中と服部は、限られたスペースで効果的・効率的にサービスを提供しようと運営してきた分館で、どちらも立地としては団地の側にあり生活道路に面していて、貸出や返却の利用がとても多い館だが、もともとのスペースが限られているために、自習室のようなものは到底設置できない状況にある。そのため、東豊中 18.8%、服部 16.7%という達成度だった。自習室としての機能を提供していないため、当然達成度が低いとも言えるし、また身近な図書館として利用している方にとっては足りない部分があると認識されている面もあるかと思われる。

「新聞」について達成度が高かったのは、野畑 66.7%、庄内 65.9%に対して、岡町 40.7%、東豊中 43.1%という違いが現れた。朝から利用される方の中には、図書館で新聞各紙に目を通すといった利用も多く、若干取り合いに近い状態も起こり得る状況がある。自分が読みたいときには他の人が読んでいるため、複数部置けないのかといった要望が生じる。図書館側の事情としては、各館それぞれ

に同じ新聞を複数部ずつ置くことは難しいのが実情である。

「集会室の利用」については、野畑 55.3%に対して、岡町 9.8%、服部 11.8%という差が出た。このアンケート期間中に、岡町では集会室の空調工事が始まり、集会室利用ができなかったことも結果に影響した。また野畑では開館当時から地域に公民館的な場所がなく、集会室の利用条件を緩やかにして利用していただいていることの影響も現れたと思う。

「医療健康情報の充実」については、岡町の満足度が 95.3%に対して、千里 58.1%と差が現われた。岡町の医療健康情報コーナーが利用者に浸透し、よく使われており、その満足度も高くなっていることが伺われた。千里の場合は、ビジネス・就労について資料面や事業展開で館の重要なテーマと意識して取組んでいることもあり、医療健康情報の入り口から切り取ってみると、このような満足度になるという意味だと見ている。

「ＹＡサービス」については、東豊中 85.7%、庄内 83.9%という満足度に対し、幸町 50.0%という差が現われた。幸町図書館はとても小さい分室で、(仮称)南部コラボセンターができたあかつきには、庄内図書館とともに南部コラボセンター内の図書館に発展的統合の予定である。このアンケート実施後の 11 月からは貸出や閲覧の機能を縮小し、自習スペースを設ける等の機能変更を既に行ったので、現在はアンケート当時と少し違うスタイルの館になっている。

この他、充実の要望・関心度・評価度が高いもの、もしくは全館的に達成度・満足度・認知度・利用率のいずれかが低いもの等、特徴的な傾向があらわれているものについてもご報告した。

- 「医療健康情報の充実」については全体に要望が高い。
- 「図書館ごとに個性を持たせること」についての関心度も高い結果。
- 「図書館の行事に参加すること」についての達成度は低い結果。
- 「ボランティア活動をする」についての達成度も低い結果となった。
- 「人間関係の広がり」については、利用率が低い現状。これまでの図書館サービスのなかで、「交流」を生み出すような展開となるサービスが、あまり行われてこなかったためと思われる。
- 「読みたい本や雑誌の充実度」については 60.0%の満足度となった。この満足度が決して高くないということが、引き続き豊中市立図書館の大きな課題と受け止めている。

前回までの外部評価では、非来館者を含む郵送による市民アンケートを実施した。1 回目の時は、教育振興計画策定に向けた生涯学習に関するアンケートに図書館に関わる質問を加えて実施し、5 年前の外部評価では、スポーツ振興計画策定に向けたアンケートに図書館に関わる質問を加えて実施した。今回は相乗

りできるものが無かったため、非来館者を含む市民アンケートは実施しなかった。ただし、前年の平成 28 年 7 月に「豊中市公共施設等総合管理計画策定にかかる市民アンケート」が実施されたため、それを今回の図書館評価部会にも提出した。公共施設に関わる市民アンケートの結果は、平成 28 年度第 3 回図書館協議会資料として以前配布した同じものを、図書館評価部会でもお配りした。

その他、図書館評価部会で何度も繰り返しいただいたご意見として、定性評価の必要性の指摘があった。今回は公共施設総合管理計画の市民アンケートを、図書館に来館していない方を含む市民への郵送アンケートの代わりに資料としてお示したが、やはり非来館者を対象に含んだデータの必要性についてご意見をいただいた。図書館独自ではなかなか実施が難しいところがあるが、今後の検討課題と考えている。

事務局からの報告は以上である。図書館評価部会全体のまとめについて、部会長からお願いします。

●部会長

「豊中市立図書館の運営状況に関する評価報告書」（以下「評価報告書」という。）をご覧ください。

1 ページ記載の図書館評価部会の委員計 5 名で外部評価を行った。

評価の内容については、1 ページ目の第 2 節にある通り、「評価項目の妥当性の評価」、「評価項目の達成目標の妥当性の評価」、「評価項目及び来館者アンケート調査報告書から見える課題の評価」、「評価項目の達成状況の評価」といった観点で行った。2 ページ目、評価対象の文書としては「自己点検報告書」、2 番目に「来館者アンケート調査報告書」、3 番目としてはその他関連するいろいろな資料、図書館に関わるアンケートや統計資料、そういったものを適宜参照しながら評価を行った。

日程は、平成 29 年 11 月 21 日から平成 30 年 3 月 20 日まで計 4 回で実施した。とりまとめに手間どり、図書館協議会委員の皆様に見ていただくのが遅くなり申し訳ない。

まず評価項目の妥当性の評価については、事務局からの報告にもあった通り、全体として簡素化する方向で提示があり、図書館評価部会の方でも検討し簡素化することについては概ね妥当とした。

図書館評価部会で何度も議論に出てきた指摘では、基本的に評価項目はそもそもなぜあるのかが分かるように、評価項目自体を作っていく必要性があるという点である。図書館の使命や目標というものが、地域にどういった形で影響を及ぼしているのか、具体的にどう図書館のサービスが地域に波及しているのかということが見えるような形で、評価項目を検討していく必要性があるのでは

ないかということが、全体に関わる意見として出ていた。

その他、事務局から説明があったように、数値目標で評価を見ていくことには、ある程度限界があるのではないかという意見が上がった。「評価項目の達成目標について妥当性の評価」にも関わるが、数値目標への達成度を 5 段階の評価ランクで評価すると、実際の細かい中身が見えない。先ほどあったように、定性評価をひとつ評価の中に組み込む等の視点が必要ではないかということだった。

「市民の交流」という話があったが、図書館に交流機能を市民がどの程度、あるいはどういった形の交流を期待しているのか、図書館の想定している交流というのが明確に市民に伝わっていないのではないかという意見もあった。図書館評価部会では、図書館で想定する交流というものを、市民になるべく伝えていくことも今後必要で、その結果として「交流」といったことについての評価が出てくるのではないかという意見だった。評価項目全体についてはそういった形で課題も指摘するような討議を行った。

「評価項目の達成目標について妥当性の評価」（評価報告書 4 ページ）では、達成目標については実績に基づいて出されており、概ね妥当であるという合意は得られたかと思う。ただ、豊中市は課題解決支援サービス等を含め、先進的に全国に先駆けて積極的に取組んでいる事例等があるが、その達成目標を前年度ベースで見ていくと、結局ハードルが上がってしまい、ランクとして出てくる評価は厳しい目に出てしまうという問題がある。そうすると、市民に提示する際には、図書館があまり積極的に取組んでいないのではないかという見え方になってしまい、実際と評価との乖離が生まれるのではないか。先ほども出てきた定性評価等、数値目標以外のものを含めて補正を行う等、検討する余地があるのではないかという意見があった。

「評価項目及び来館者アンケート調査から見える課題の評価」について、図書館活動の目的をどこに置くかによって、評価の仕方は変わってくるだろうということだった。「豊中市立図書館中長期計画（グランドデザイン）」に基づいて取組みを進めているが、各地域によって図書館毎に違いがある部分、課題解決支援でも図書館によって力を入れているところが違うが、そのあたりを評価とうまくリンクさせることが必要だろう。

図書館活動の可視化ということでは、図書館が活動を多様化しているが、これらがそもそも何のために行われているのかということを、利用者あるいは住民に対して積極的に周知していく必要性があるだろう。図書館のヘビーユーザーがいる一方、利用されていない住民が図書館に対して持つイメージと、図書館がやろうとしていることとの間に若干ズレがあるのではないかという意見もあった。図書館の基本的な活動というのは重要なことなので、ベースは重視しながら

も、新たな取組み等を始めた時に、それが何のために行われているのかがより明確に市民全体に伝わるような働きかけをしていく必要があるのではという意見があった。

図書館のＰＲの課題に関しても、外部の機関等と連携することで、図書館がやや苦手とするような部分は支援してもらうという考え方も、今後の方向性としてはあるだろうという意見も出された。

図書館の評価という時に、図書館活動自体の評価というのは実績があるが、例えばビジネス支援等にも関わってくるが、豊中市の就業率とか、図書館の外部データと図書館がやっている活動をリンクさせる可能性を考えていってはどうか。図書館活動が、実際の地域のいろいろな活動にどのように影響しているのかは、因果関係とまではいかなくとも、そういったものがどう推移してきたかということを、図書館の活動の展開とリンクさせることによって、図書館活動の可視化に繋がるのではないか、そういった評価の仕方というのもあるのではないかという意見が委員から出た。

「評価項目の達成状況の評価」では、全体として図書館活動を積極的にされているのではないかということだった。1 点訂正箇所があるのだが、7 ページの第 2 段落目の子ども読書活動推進のところ、少し書き方が不十分だったので訂正したい。豊中市の「子ども読書活動推進計画」が 2 期 10 年、官民一体となって取組まれた結果として「子ども読書活動連絡会」の立ち上げにも繋がっていて、子ども読書活動推進の基盤を作っているということを書く必要があったが、今の文章では分かりにくいので、その部分については加筆修正したい。

達成状況については、ランク 2 もあるが、これは先ほど言ったように、目標値が高くなった結果として評価が低く現われている部分で、概ね全ての項目で図書館として活動をし、実績も挙げているだろうという評価が得られたと思う。

評価の取りまとめとしては、図書館が中長期的な展望を持ちつつ着実にサービスを展開しているというまとめはできると思う。先ほど紹介のあった「豊中市公共施設等総合管理計画策定にかかる市民アンケート」においても、過去 1 年間に利用した公共施設として、図書館が第 1 位となっていること、優先的に充実させていくべき施設としても第 2 位ということで、市民に定着し期待もされている施設であるという 1 つの現われではないかと思う。

課題としては少し広い視野からになるが、地域にどういった図書館を還していくかといった視点で、今後の図書館の評価ということを発展的に検討いただく必要があるのではないかということが、図書館評価部会全体としての意見のまとめである。どちらかといえば個別の評価というよりも、評価のあり方について 4 回を通して議論した。可能な部分と不可能な部分もあると思うが、できれば図書館がどう地域に影響を及ぼしていくかということが、なるべく市民に分

かりやすい形で提示できるような評価のあり方を模索いただければと思う。1つの提案として、評価の報告書の提示の仕方等についても工夫ができればよい。評価報告書が図書館に置かれていてもそれを全部読むのはなかなか難しいので、簡易なリーフレットのようなものにすると手にとってもらいやすくなるのではないか。可能な範囲でやっていただいて、なるべく市民が図書館の活動に興味を持って、図書館がこのように地域に影響を及ぼしていると理解できるような評価活動を行っていただきたい。期待も込めて、そういったまとめとなっている。急いでまとめたので読みにくいところもあるかもしれないが、概ね全体として、図書館評価部会で議論した内容を、部会長として以上のように報告させていただく。

●委員長
　ありがとうございました。事務局から自己点検評価、外部評価について部会長から説明をいただいた。ただいまの説明について、ご質問ご意見をいただきたいと思う。発言にあたっては、マイクを使っていただきたい。
　その前に部会長と一緒に、図書館評価部会で熱心に議論いただいた委員、いかがでしたか。

●委員
　私は評価の勉強をさせていただこうと思って参加したが、図書館では結構自分に対して厳しいというか、すごく過小評価される部分があって、もっと胸張って言えばいいのにという部分があったり、やはり分かりにくいところもあると感じた。来館者アンケートは来た人へのアンケートなので、豊中市民全体にとってどうかという意見が図書館評価部会ではかなり出た。

●委員長
　それでは各委員はいかがでしょうか。

●委員
　先ほど話しに出た、ハードルの高い評価目標の達成度が低くなる点については、もともとハードルが高いと分かっているのであれば、それに合わせた達成度、例えば今年度はこの程度をめざす、3年後にはこの程度と設定すればあまり無理がないだろう。予定通りであれば問題ないと思う。逆に3年後に50%にしようと思っていたのに、まだ20%という結果が出てきた場合に、その事業を取りやめるという判断もありで根本的にもう一度見直すこともあってよい。全部がランク5になるまで最後まで頑張るのか、それでうまくいくものもあるだろうが、

最初から盛況というものもあれば、なぜかうまくいかなかったというものもあるだろう。それは止めるなり別のやり方をするなりということも必要になってくると思うが、そういうのがあまり無かったという印象であった。

あとは、「ボランティア」という言い方になると、ただで働かなければならないという受け止めになってしまいがちで、ボランティアだから他人に何かをしてあげるのではなくて、例えば皆で草むしりをすることは自分の為でもあり別にボランティアではない。あまり「ボランティア」という言葉を使わずに「みんなでやってみよう」的な感じで広めていくのもいいかと思う。「ボランティア」という言葉になると制約されてしまう可能性がある。自由参加がきかなくなり、「ボランティアサークル」になると必ず行かなくてはという感じになってしまう。ここで掲げている「ボランティア」というのがどこまでのものか、「ボランティア」への参加人数や、何人募集して何人参加したというパーセンテージも、皆が参加しやすい形のボランティアかどうかによって違いがあるだろう。「ボランティア」のくくりも少し考えてみてはどうかと思う。

図書館のＰＲについては、以前住んでいた横浜では１年に１回フェアがあり、市役所の様々な部局が集まって、うちはこんな仕事をしていますよとボードに書いて説明したり、クイズをして景品をもらったりというのがあった。役所のフェアみたいなところで、図書館がどんなことをやっているのかを紹介してもいいと思う。豊中まつりでもよいし、もう少し小さい規模でもよい。最近見かけたのは、動く図書館が緑化植物園に行ったことはとても良かったと思った。図書館をあまり利用しない人にも、ああいうところでこんな本も図書館にあるんだと、そういうところからもニーズを拾い出せそうだと思う。先月の地震等で被災されているところへ図書館が出かけることもあるだろうし、何かイベントがあったら動く図書館で出かけてそこでアンケートをとる等、普段図書館を利用しなくてもたまたま出かけた先で見つけて入ってみる人がいると思った。図書館を利用しない人について、豊中市は転勤で移って来る方も多く、わざわざ図書館の位置を自分で調べて探してまで行くことは少ないと思う。子どもさんがおられる方が集まる場等でＰＲし、図書館の場所もお知らせするといったことは効果がありそうだと思う。

●委員長

ありがとうございました。最初おっしゃったことについては、この図書館評価システム自体がＰＤＣＡサイクルを回していくためのチェックの部分の仕組みではあるが、アクトの部分をある程度「見える化」して、次の計画の中にきちんと明記していくということで、点検評価がどのように活かされてきたかが見えるようにしておくことも、また必要かもしれない。

●委員

全体的にどう評価されどのような結果がでたのかについては、課題について今後どう展開していくのかということが重要になってくると思う。学校に関わる部分については、学校図書館への支援（「とよなかブックプラネット事業」）について、「そう思う」と「少しそう思う」を合わせて50%を超える人が「役に立つ」と思ってくださっているが、その半面「知らない・わからない」が30%なのは、少し考えないといけない問題だろう。

学校関係者の認知度はそれなりにあると思うが、児童・生徒が公共図書館での調べ学習を体験する知的探究合戦「めざせ！図書館の達人」や「子ども読書活動フォーラム」等の取組みが、一般の方へどの程度アピールできているのかを考えた時、そこのところが課題ではないかと感じた。

●委員

先ほど委員の指摘もあったが、図書館の自己評価は自分に厳しいと感じるところがある。個人的には割と頑張っているなと思うが、評価の数字に厳しい点が付いているのを見ると、このギャップはなんだろうかと思う。評価報告書のまとめで、豊中市の公共施設で「過去１年間に利用した公共施設」では第１位、「優先的に充実させていくべき施設」でも第２位で入っているという市民アンケートの結果は、図書館をよく利用する市民としてはホッとしている。定期的にＰＤＣＡサイクルで見直し、目標を立て、またやっていく仕組みは先進的な試みだと聞いているが、これはやはり必要なことだと改めて感じている。質問になるが、自己点検報告書の６ページの中項目５に記載されている「子ども読書活動推進連絡会」を立ち上げ取組んでいるとあるが、具体的にどういうことに取組んでいるのかお聞きしたい。

●事務局

「豊中市子ども読書活動推進計画」２期10年の中で、子どもの読書環境を整えるためには、図書館だけでなく市民や関係団体等、身近にいる大人が「手渡し」「つなぐ」ということが重要で、そのネットワークの土台づくりの２期10年であったと認識している。豊中市では、府が策定した「子ども読書活動推進計画」のレベルは一定程度達成しているということで、第３期計画策定ではなく、ネットワークを繋ぎながら、それぞれの立場で子どもの読書環境を醸成していこうという趣旨で「子ども読書連絡会」を立ち上げた。何か事業をということが目的ではなく、継続事業としては子ども読書マップの作製等がある。

連絡会の内容については、それぞれの委員の立場から意見をいただく中で、

例えば昨年度は、子どもの読書環境を整えるには子どもの置かれている背景や状況を知る必要があるという意見があり、それを共有する内容で行った。障害者差別解消法の施行時には、障害のある子どもたちにとってのサービスのあり方を考える等、その時々の様々なテーマに沿ってワークショップや議論をやりながら、意見をいただく機会になっている。

●委員

意見を共有するということで、それをまとめて報告するところまではいっていないという感じですね。情報を関係団体で共有することは大事だが、出た意見を図書館が集約し、いろんな形で情報発信するということは、今のところまだその段階ではないということですね。

●事務局

計画の策定等ではないので、成果物としてお示しすることは少し難しいと考えているが、今ご意見をいただいたように、今までは情報の共有や関係作り等を中心にしてきたが、連絡会の活動自身をもっと一般の方に知ってもらえるような形にできないか今後検討していきたい。

●委員長

今の話にもあったが、シビアに自己点検されていると思う。図書館の自己点検・自己評価は、図書館法の中で明記されているが、豊中は明記される以前から先進的に取組んできた歴史と実績がある。図書館法には自己点検・自己評価を行い、公表することも規定されている。さらに、豊中の場合は、第三者の目で確認するという非常に丁寧な外部評価を行っている。公表のやり方については、サイトにアップすれば公表したことになるかというと、なかなか難しい部分もある。やはり部会長の指摘にもあったように、図書館のことを知らない、あまり関心のない人が見て、この部分はよく頑張っていると思ったり、ここに問題があるといったことが伝わるように分かりやすくまとめる工夫は必要だ。

私は自己点検・自己評価はシビアでいいと思うし、外部評価も厳しくやるべきだと考えている。それによりきちんと課題を発見することに繋がる。厳しい自己点検・自己評価を行っている豊中の図書館が、例えば全国的に見てどういう状況にあるかが客観的に把握できる情報データを合わせて公表することで、どの程度のレベルなのかを把握できると同時に、図書館が実績を伸ばすためにどこまでシビアに課題に取組もうとしているかが伝わるのではないか。豊中の図書館を、全国的な図書館活動の中で見える形に位置付ける工夫も必要だ。大阪府立図書館の活動評価は、A4 用紙 2 枚にグラフや写真を入れ簡潔にまとめた

ものも作っている。市民の方々に図書館を活かしてもらう礎になるので、公表方法の検討をぜひお願いする。来館者アンケートの結果については、協力していただいた方々にきちんと公開することもお願いしたい。

図書館のＰＲだが、例えば滋賀県の場合は、いくつかの図書館で「図書館友の会」があり、その連絡組織として「滋賀の図書館を考える会」を作っている。ここが広報誌を出していて、図書館って何するところかというような図書館の理念を市民の立場から伝えている。その中で叱咤激励も含め図書館職員に何を期待するかということもやっている。ＰＲとは、図書館側からの発信と同時に、市民の側からの働きかけや口コミみたいな形が大切だと思う。アメリカの図書館を見ていても、図書館友の会の活動として、ボランティア活動で図書館をサポートすることの他、市民の立場で「図書館があることの大切さ」や「コミュニティにとっての図書館の意味」を市民に伝えていくことも重要な活動になっている。そういう意味で、この評価報告書のまとめにあるように、広報は図書館だけでやってもどうしてもうまく伝わらないものなので、今後そのような視点を大切にした取組みもお願いしたい。

●委員長

最初にお伝えしたように、図書館評価部会は図書館協議会の臨時部会ということで、当協議会から委員が加わり、そこで外部評価としてまとめられたのがお手元の「豊中市立図書館の運営状況に関する評価報告書」である。これは豊中市立図書館協議会名で報告することになるので、この場でご承認いただけるかどうかを確認しておきたい。ご承認ということでよろしいか。

●各委員

承認の拍手。

●委員長

ありがとうございます。部会長のほうで若干の文言の修正の上、外部評価報告書として承認されたということでまとめさせていただく。

●委員長

「中央館構想と施設配置のあり方について」事務局から説明をお願いする。

●事務局

今年度の議論の方向性と基本政策についてご説明する。

昨年度、中央図書館の機能についてご議論いただいたが、その中で中央館だけ

ではなく、市全体のネットワークを考えた上での議論が必要であるという意見もいただいた。今年度は（仮称）南部コラボセンター開館後の図書館全体のあり方について、中央館を核とした施設配置を考える上で、それぞれの機能分担のあり方、ふまえるべき点等についてご議論いただきたいと考えている。

前提となる市の考え方として、昨年度第 1 回目の図書館協議会において施設活用課担当者から説明させていただいた「公共施設総合管理計画」がある。将来にわたって安定して市の公共施設を維持管理するためには計画的に取組んでいくことが必要であり、施設総量として全施設の床面積を 2 割削減という市全体の目標に向けて、取組みや計画を作成しておく必要がある。岡町図書館等の施設の老朽化等をふまえて、現状の 9 館、南部コラボ開館以降 8 館体制でいくことは難しい中で、中央図書館を核とした施設再編を考えていく必要がある。

昨年度の協議会以降の状況として、今年 5 月に市長が交代し、新体制のもと基本政策が策定、公表された。これは 1 期 4 年の中で市長が政策として掲げるもので、5 つの政策の柱と 3 つの重点プロジェクトで構成されている。1 つ目の柱である「教育文化先進都市とよなか」の中の 8 番目の項目に「中央図書館構想の策定」があり、中央館機能を持った図書館や図書館全体の適正配置のあり方等をまとめた中央図書館構想を策定するとなっている。今年度はその 1 年目として、図書館協議会で引き続きご議論いただき、来年度以降は一般の市民の方対象にワークショップ等の機会を作り、図書館自身に関心を持ってもらいながら広く意見をいただくことも考えている。それらの意見をふまえて教育委員会を中心として検討を行い、平成 33 年（2021 年）には基本構想の策定を予定している。

●委員長

昨年度、図書館協議会で中央館機能を考える中で出た意見として、中央館を作ることが目的ではなく、それぞれの地域館が充実したサービスを展開できるために今欠けていることは何か、そのためには中央館的な働きをどこかで担うものが必要ではないかという議論の流れがあり、そうしたことを踏まえての中央館的機能となっていたと思う。

図書館協議会の今後の議論の進め方として、図書館として策定をめざす構想の基本的な考えをまとめていくということになる。昨年はゴールが見えない議論をしていたが、明確にゴールが設定された議論となるのでよろしくお願いする。公共施設の適正配置ということでは、一定そうした施設の削減等も視野に入れながら、ある意味非常に厳しい議論をしなくてはいけないだろう。ご質問やご意見は。

●委員

今委員長が具体的なゴールが見えてきたと発言されたが、これから議論を進めて行く中で、私としては学校と図書館が切れない形の構想ができればいいと思っている。

●委員長

「教育文化先進都市とよなか」となっているので、先進都市である以上中央図書館構想・中央図書館機能を考える時には、当然学校図書館との連携や学校の授業と図書館の連携も視野に入れ議論していかなければいけない。基本政策の中で５つの政策の柱があるということは、当然柱それぞれがきちんと結びついたものとして立ち上がっていかなければいけないし、「教育文化先進都市とよなか」の柱の中で８番目の政策項目として中央図書館構想の策定が立項されているということは、中央図書館という項目だけでなく「教育文化先進都市」としての中央図書館構想の視野・視点を持つことも重要だと思うので、そのあたりも含めた議論ができればいいと考えている。

●委員

（豊中の）図書館は教育委員会の所管だが、昨今は「まちづくり」が中心になり市長部局のほうにという考え方もあり、基本政策の「まちづくり先進都市とよなか」の項目にも（仮称）南部コラボセンター基本構想が位置付けられている。昨年の南部コラボセンターラウンドテーブルでも、図書館が中心になるであろうという話をしていたが、教育委員会が所管といっても全てに関わってくると思う。豊中ブランドやＰＲや外部評価も、今まで議論してきた全部に関わってくると思う。

話がずれるかもしれないが、公共施設配置の２割削減は、おしなべて全部の施設が２割減ということではないですよね。どこに重点を置くかということであれば、豊中の施設配置のアンケートでも優先的に充実させる施設の２位に入っているので、図書館は２割まるまる減らさなくてもいいのではという考え方ができないかと思ったりしている。確かに今の施設をそのまま残すのは現状の社会状況では難しいと思うが、豊中の図書館だからという強い思いが私にはあり、そこの本気度というか、施設が２割減る中でも中央館構想がうまく機能し充実するような議論をしていきたい。

●委員長

２割というのは豊中全部の施設の２割だと思う。当然その中には優先等の問題が出てくるだろう。その時に優先度を判断する基準は、私は市民の声だと思っている。おそらく市民がそれぞれの施設について、どのように判断するかと

いうことが最後に大きな力になってくる。市民から図書館大切だという声が大きければ、施設全体で２割、3 割のところもあれば１割という流れになってくると思う。市民の方々が、どこまで図書館を支えてくださるか、必要だと考えるかにかかってくるであろうと考える。

●委員

先ほどのアンケートでは多文化共生の認知度が割と低くなっている。多文化共生のための市の窓口・相談をやっている場所が、豊中駅前の「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」のビルの中の「とよなか国際交流協会」でもやっているし、「すこやかプラザ」の 2 階の「ボランティアセンターぷらっと」でもやっていると思う。たまたま国際交流協会が休みで、その時来られていた外国の方に、すこやかプラザでもそういうのをやっていますよとお伝えしたら、子どもの予防接種で行ったことはあるがそれは知らないという話であった。外国の方には、色々な場所に窓口があり棲み分けがよく分からないのではないかと思った。多文化共生のための資料の一部は、よく利用される場所にあればいいのであって、図書館に全て置く必要はない。図書館を利用しなくてよいという意味ではなく、行きやすく集まりやすい場所に資料を配置することで、どこがどれだけ削減かは別にして、再配置も含めて交通整理していく考え方もあると思う。

●委員長

図書館の機能をいかにきちんと市内に配置していくかだと思う。それにはいろんな窓口があってもいいだろう。例えば外国語の資料は図書館以外の場所に団体貸出されているのか。

●事務局

多文化共生の窓口を庄内図書館がやっており、まとまった数の外国語の図書を購入している。庄内図書館館内に置くだけでなく、担当者や外国人の方の要望等を聞きながら、年間 100～150 冊程度の本をとよなか国際交流協会に定期的に配本させていただいている。

●委員長

実際に図書館の本が他の施設において活用されている事例があるということですね。多文化共生の認知度は言葉の問題もあるかもしれない。レファレンス・サービスの認知度が 80％となっていて非常に高い。確か京都府立図書館のアンケートではすごく低かった記憶がある。豊中のレファレンス・サービスの

充実も分かるし、このあたりも比較すれば特徴として出せるかもしれない。

●委員

図書館が地域振興という形で、最近前面に出てくることが多い。豊中の場合は着実に教育という枠組みで成果が得られていると思う。先程の広報等に関係するが、市民に分かりやすく見せながらも、今まで継続してきた成果をベースに、これからますます高齢者が増えてくる中で、これまでの学校教育以外に公共図書館での教育機能みたいなものは、より重要になってくる。中央図書館の機能を考える上で、そうした視点でどうコンテンツを構築していくかが非常に重要な要素の 1 つだと考えている。

●委員

中央館構想の策定を 2021 年までに行うということであるが、市民アンケートの優先的に充実させていくべき施設として図書館が上位にあるという話と同時に、施設の適正配置では 2 割削減という話があり、相反する言葉だなと悲しく思った。それを心に置いて市民の声を伝えていかなければならないとの話であったが、そのやり方が私の中では漠然としていて、市民の声をどう発していくのかが具体的に出てこないのがもどかしいところだ。「基本政策」の中で進捗状況を毎年度評価すると明記されているので、余計市民が声をあげていく必要がある。これからの図書館協議会でしっかりした議論を頑張って積み重ねていきたい。

●委員長

正直頑張らないといけない。図書館の職員だけにお任せするわけにはいかないので、何ができるかというところから市民の立場で考えてほしい。何をするかではなく何ができるかというところからしか始められない。そこには図書館が良くなってほしいという市民の思いがこもっている。基本政策は毎年度その進捗状況を評価・公表するものとあるが、どういう形になるのか。

●事務局

達成状況の評価になるので、ゴールの「中央図書館構想の策定」に向けて、毎年度着実に進んでいるかという達成状況の評価ということになる。

●委員長

例えば図書館協議会の議論が行われたという実績等が、一定評価に反映されるということですね。議題 4 その他について事務局から説明をお願いします。

●事務局

平成 29 年度豊中市立図書館の中長期計画（グランドデザイン）進捗状況一覧表は、平成 29 年度の振り返りと 30 年度に優先的に取組むべき事業について、昨年一昨年と同様にまとめたものである。最初に図書館の使命と理念、基本目標があり、次に概念図、優先すべき 4 つの目標についての進行管理報告書、最後に 28 のプランの個々の取組みの達成状況を確認するという内容となっている。今年度はグランドデザインの折り返し点であり、中間見直しをどのような形で進めていくのか検討しているところである。

（仮称）南部コラボセンター関連で「義務教育学校・（仮称）北校＆（仮称）南部コラボセンターの設計に向けたワークショップ 2018」は、4 回シリーズでアイデアを出すところから一定形を作るところまで市民の方に参加していただき、今年度いよいよ設計ということになる。

「しょうないＲＥＫを知るためのガイドブック」は、市民協働事業の「しょうないＲＥＫ」が地域の様々な課題解決に向けて、どんなことを、どんな団体と一緒にやってきたのかということを、なるべく見た目を分かりやすく、市民と一緒に作成した成果物になる。追加の資料としては以上です。

●委員長

点検という観点から考えると、この進捗状況一覧表は、図書館全体の事業の組み立てという面では分かりやすく、図書館が何をめざしそれがどこまで達成できているかを知ってもらうために利用できるだろう。他にご意見ご質問は。

●委員

中央館構想について、今はこの先の道しるべがない状態で、私たちは次回までに何をどう考えてくればいいのか。

●委員長

構想の策定を図書館が行うということで、中央館の機能についての検討を今回やる予定だったが、評価等の報告もあり十分な時間を取ることができなかった。前年度の図書館協議会でおこなった中央館の機能についての議論を深めていくことが当面の議題になる。

●委員長

中央館の機能について前年度の協議会の議論を事務局でまとめ直し、市の方で中央館構想の話がもう少し具体的に出てくるようであれば、そうした情報も

含めてできるだけ情報提供を委員の方にお願いしたい。

●事務局
　構想の策定は教育委員会を中心に行うが、図書館協議会にはそれに向けてのご意見をいただき、ご議論していただくという位置付けで考えている。中央館と分館との機能分担のあり方等をまとめたたたき台を、今回のために作成しているが、もう少し修正した形で委員の皆様に送付させていただく。中央館構想とそれを核とした施設配置やその役割分担をどう考えるのかといったところをご議論いただきたいと思っている。早めに資料をお送りするのでご検討をよろしくお願いします。

●事務局
　昨年度の図書館協議会の冒頭で、公共施設の再編についての担当課職員からの説明を受け、スタートラインの課題としてとても重たい宿題だと感じている。私たちの中では、以前から図書館の様々な計画を語る中で中央図書館があればいいねと言う話は無かったわけではないが、今回のように市長の基本政策で中央館構想が明記されたことは、これまでになかったことが現実に近づくということでもある。公共施設の 2 割削減という重たい課題の中で、市民アンケートの結果はとても心強いものであった一方、だからと言って図書館が削減から除外されるものではないことは行政の中にいる職員として日々肌に感じている。ある種矢印が違う方向を向いていることを絡めていかなければならない難しいテーマと感じている。図書館協議会の場でご助言をいただき「中央館図書館構想の策定」にご意見を繋いでいけたらと思う。

●事務局
　もう一点付け加えさせていただくと、中央図書館ができて施設の 2 割削減で今ある分館がなくなるというマイナスイメージだけでなく、例えば 10 年スパンで図書館を考える時、図書館自体の使い方のあり様も変化していると予想される。この 10 年を見ても非来館型の利用が増加し、そういった非来館型の方に向けてのサービスも充実してきている。今後の方策の 1 つとしては、必要な資料を必要なところで受け取るサービスポイントのような、今までにない床面積によらないサービスのかたちや、図書館以外でのサービスの機能分化も考えられる。また、公共図書館だけではなく本がある空間での交流スペースとしてマイクロライブラリーのように、人と人との交流を育む場もかなり増えている。そういうことも含めて、今までにできていないところを増やしていきつつ、目標に向かっては削減という事も見据えながら、前向きな議論になれば考

えているので、多角的な視点でご議論いただきたいと思っている。

●委員長

かなり厳しい議論をしなくてはいけないという気はしている。豊中の図書館システムをどう組み立てていくかということと、サービスのネットワークをどう作っていくかというのは、少し別物として考えたほうがよい。図書館が責任を持つべき図書館システムをどう構築していくのかということがベースにないといけない。そこには当然サービスを担う人がいて、サービスが責任を持って提示されることが図書館システムの基本だと思う。そのことと様々なところにサービスポイントがあるということは図書館のアウトリーチ的なサービスの位置付けになるので、そこは少し整理して議論していけたら思う。そうしたことを踏まえて考えておいていただき、委員の皆様には周囲の人々の様々な意見を協議会の場に寄せていただくことで、より充実した議論ができると思うのでよろしくお願いしたい。それではこれで閉会します。